

平成20年度

教育目標

明るく かしこく 生き生きと

新潟市立笠木小学校

学校教育ビジョン

重点目標
相手のことを思いやる子 自分の考えをもつ子 強い心と体をもつ子

【生活指導】 基本的生活習慣の定着を図り、自主的な生活態度を育てる
・進んで挨拶をする ・善悪の区別をつける ・ものを大切にする

学力の向上

豊かな心

健やかな体

基礎基本の確かな定着

国語、算数の単元末テストで、正答率80%を上回る児童を増やす。国語・算数両方8割以上の学年が5学年以上となる。多くの児童が、発達段階に応じた家庭学習時間(10分×学年)に取り組むことができる。児童取組カードの調査で81%以上が取り組んでいる。

自ら学び自ら考える力の育成

多くの児童が、話を聴き、自分の考えを伝えることができる。児童アンケートで「聴く」「伝える」の肯定的評価(両方が8割以上)が、5学年以上に見られる。多くの児童が、難しい問題でもあきらめずに考えることができる。児童アンケートの肯定的評価(9割以上)が、5学年以上に見られる。

豊かな心の育成

多くの児童が、縦割り班で協力して活動することができる。児童アンケートの肯定的評価(8割以上)が、5学年以上に見られる。多くの児童が、友達や先生方へ挨拶をすることができる。児童アンケートで友達、教師両方に6割以上できたになる。

いじめの根絶
不登校の改善

多くの児童が、学校生活を楽しんでいると思うことができる。児童アンケートの肯定的評価(8割以上)が、5学年以上に見られる。多くの児童が、どの子に対しても公正・平等に接することができる。児童アンケート「好き嫌いなく学級の友達と協力している」の肯定的評価(8割以上)が、5学年以上に見られる。

体力の向上

体力テストの「立ち幅跳び」「20mシャトルラン」の記録で、県平均を上回る集団を増やす。16集団(2種目×3～6年男、女別)中、8集団以上となる。テスト実施7月(11月、2月)より、あての睡眠時間を確保し、よい生活習慣の定着を図ることができ、4～6年(8時間以上)児童アンケートで、あての睡眠時間を確保できる(8割以上)が、5学年以上に見られる。

中野小屋・内野 両中学校区内の連携
中学校区内の幼・保・小・中の連携強化
・相互の授業公開
・幼保小中共通の取組実施
・学校保健委員会等の合同実施

家庭・地域との連携
・学校関係者評価(年3回)
・学校だよりの全戸配布による教育活動の紹介
・後援会、自治会、老人会、笠木ふれあいくらぶとの交流

学習基盤の整備

環境整備
・学校田、畑での栽培活動
・知的で働き掛ける教室
・体力作りのための空間・時間作り
・安全で清潔な校舎内外
地域人材リストの作成と活用

授業力の向上

(OJTの積極的推進)
コンピュータの活用
・HPの随時更新、広報
・コンピュータリテラシーの獲得
特別支援サポート体制の確立
・研修会の実施

自校の教育課題

「生きる力」を培う、バランスのとれた教育課程の編成
・実施
・基礎学力の習得徹底と基礎基本の確かな定着
・主体的に学ぶ力の育成
・豊かな心(命を大切にし他を思いやる心)の育成
・体力づくりの推進
信頼される学校づくり(透明感のある開かれた学校づくり)
・保護者、地域が参加・協力できる体制の整備
・保護者、地域への説明責任の履行
・保護者、地域の意見・要望の反映

保護者・地域の願い

・自らあいさつのできる子供
・落ち着いて学習に取り組める子供
・基礎・基本をしっかり身に付けている子供
・相手の気持ちを考えた言葉遣いができる子供
・家庭と学校が協力し、よい教育の実践できる学校・教師

教師の願い

・思いやりをもって、明るく元気な子供
・自分の考えをもち、主体的に学習に取り組む子供
・最後まで責任をもってやり抜く子供
・豊かな心とたくましい体をもつ子供

児童の願い

・楽しくて分かる、できる授業
・自分のもつよさが認められる学校生活
・仲良く助け合い、遊ぶ友人関係
・いろいろな技ができる体、体力

児童の実態

・進んで仕事に取り組む子が多い。
・体を動かして遊んだり、運動したりすることを好む。
・学力検査の結果が、県・市の平均を下回る。
・固定された人間関係である。
・肥満傾向児童が増加している。